

動画視聴のためタブレットを用いた人工股関節全置換術後の患者教育に対する満足度調査

西村美希¹⁾, 上田将之¹⁾, 赤田直軌¹⁾, 武田康平¹⁾, 石田哲士¹⁾, 本城誠¹⁾, 川那辺圭一²⁾

1) 滋賀県立総合病院リハビリテーション科 2) 滋賀県立総合病院整形外科

キーワード: 動画・タブレット・運動学習

はじめに

人工股関節全置換術(以下 THA)は疼痛の軽減と機能的改善が得られ患者満足度の高い手術である一方、脱臼等の不安を抱える患者も少なくない。近年、患者の主観的な不安軽減に対する患者教育の有用性が報告¹⁾されており、当院でも独自に作成したパンフレットによる患者指導を実施しているが、紙面での情報量や動作理解に限界があると感じている。

そこで今回、疾患や治療内容の理解を深め退院後生活や脱臼への不安解消を目的に患者教育用動画を作成。それを視聴するために入院患者に対してタブレット(図1)を貸し出す取り組みを行い、アンケート形式にて満足度調査を実施した。

今回、タブレットおよびパンフレットの両方を使用した患者の結果からタブレットの有用性を検討したので報告する。



図1 タブレット

方法

2017年10月～2018年3月に当院でTHAを施行した患者97名(男性16名, 女性81名, 平均年齢66.8歳)を対象に、退院時に無記名のアンケート用紙を配布した。回答形式は5段階の単一選択式および自由記述とした。質問内容は手術や病棟生活、リハビリテーション等について、I.タブレット、II.パンフレット各々の1.使用頻度2.役立ち度3.不安軽減(①手術②入院生活③リハビリ④脱臼⑤退院後の日常生活)4.入院中の自主練習に対する役立ち度を設定した。

なお、アンケートの実施にあたって、対象者には研究の目的・方法、自由意志、厳重なデータの管理、プライバシーおよび個人情報の保護について説明し、提出にあたり同意を得たと判断する旨の説明を行った。また、アンケートは当院倫理委員会の承認を得て実施した。

結果

アンケートの有効回答90例(有効回答率92.7%)のうちタブレットおよびパンフレットを両方使用した患者は51名(使用率56.6%, 平均年齢64.3歳)であった。

1.使用頻度(図2)について、1週間に2回以上の使用はタブレット75.8%, パンフレット52.0%であった。

以下「役立った」「少し役立った」を合わせた値を記載する。

2.役立ち度(図3)について、タブレット96.8%, パンフレット85.9%であった。

3.不安軽減について、①手術(図4):タブレット72.6%, パンフレット78.8%, ②入院生活(図5):タブレット85.5%, パンフレット83.5%, ③リハビリ(図6):タブレット90.3%, パンフレット87.0%, ④脱臼(図7):タブレット95.2%, パンフレット78.8%, ⑤退院後の日常生活(図8):タブレット91.9%, パンフレット74.1%であった。

4.入院中の自主練習の役立ち度(図9)について、タブレット90.3%, パンフレット80.0%であった。

自由記述におけるタブレットへの記載として、利点は「予習・復習が出来た」「紙で見るよりわかりやすかった」「理解が進んだ」「不安が解消された」「入院生活がイメージ出来た」、欠点は「見にくい」「時間が長い」の順で回答が多かった。

考察

結果よりタブレットがパンフレットに対して「役立った」「少し役立った」が5%以上高かった項目について考察する。

1.使用頻度について、2017年の60歳代のスマートフォン所有率は51.9%²⁾であり60歳代以上のタブレットに対する苦手意識が軽減し予想以上に受け入れやすくなっていることが窺われた。また、パンフレットは入院前外来で配布され事前の情報収集に使用されやすいのに対し、タブレットは入院時のみの貸し出しのため入院中に集中的に使用されたと推察する。

2.脱臼・退院後の日常生活の不安軽減について、賀川らは学習初期には視覚的イメージ形成が効率的な運動技能習得の一要因となる³⁾こと、また丸谷らは難易度の高い課題では文章

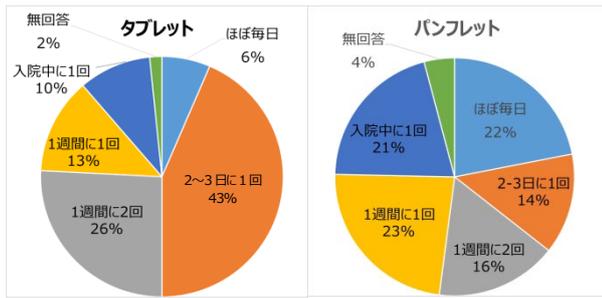


図 2 使用頻度

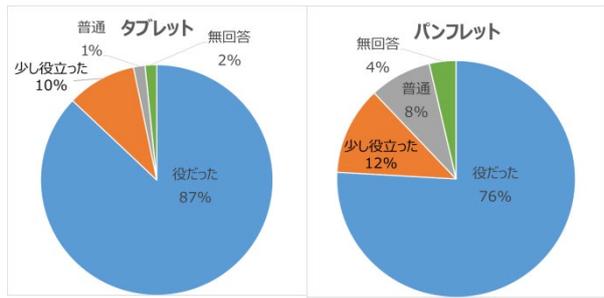


図 3 役立ち度

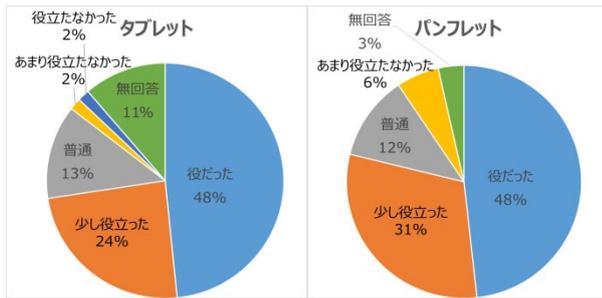


図 4 不安軽減 (手術)

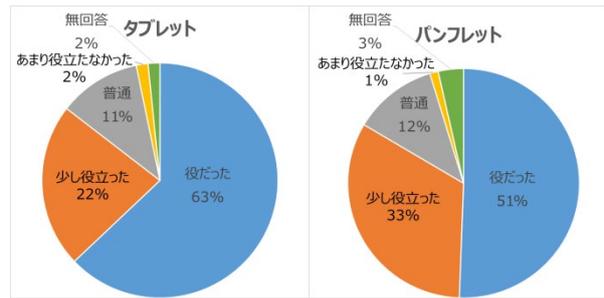


図 5 不安軽減 (入院生活)

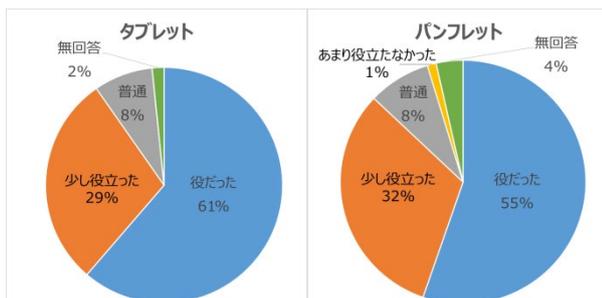


図 6 不安軽減 (リハビリ)

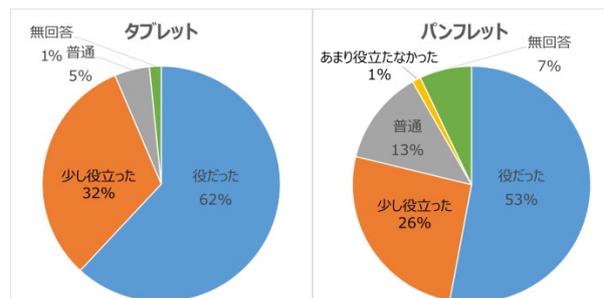


図 7 不安軽減 (脱臼)

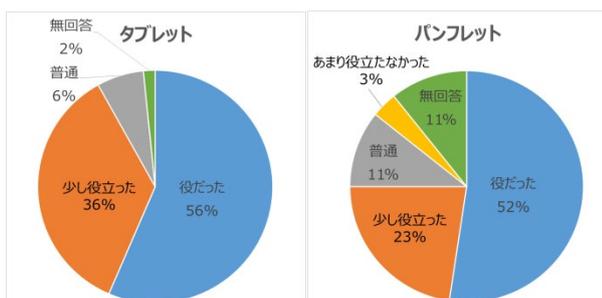


図 8 不安軽減 (退院後の日常生活)

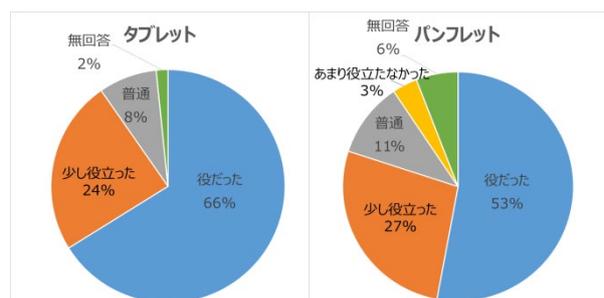


図 9 自主練習に対する役立ち度

とアニメーションを提示した場合に内容理解が促進する⁴⁾と報告。複雑な動作の理解には言語情報や静止画に比べ立体的で連続した変化を捉えやすい映像が有利であったと考える。

3. 自主練習に対する役立ち度について、練習の目的や動作方法を映像と音声による解説付きで示しておりより取り組みやすくなったこと、必要な情報を好きな場所・タイミングで繰り返し視聴できたことが高い満足度に繋がったと考えた。

文献

- 1) 当目雅代: 人工股関節全置換術における入院前患者教育の実施と評価, 日本看護科学会誌 24 巻 2 号, 2004
- 2) MMD 研究所: 2017 年シニアスマートフォン利用に関する調査
- 3) 賀川昌明: デジタル・コンテンツを利用した動画フィードバックが運動技能の習得・発揮に及ぼす効果の検討, 鳴門教育大学情報教育ジャーナル, No.8: 1-9, 2011
- 4) 丸谷大樹, 他: 文章, 静止画, アニメーションによる提示が学習教材の理解へ及ぼす影響の定量的評価, 第 31 回ファジィシステムシンポジウム 講演論文集: 322-327, 2015